ICOM

TECH TALK

(No.4)

Grade up Function

IC-W21

Icom Inc.

■シンプルモードとは

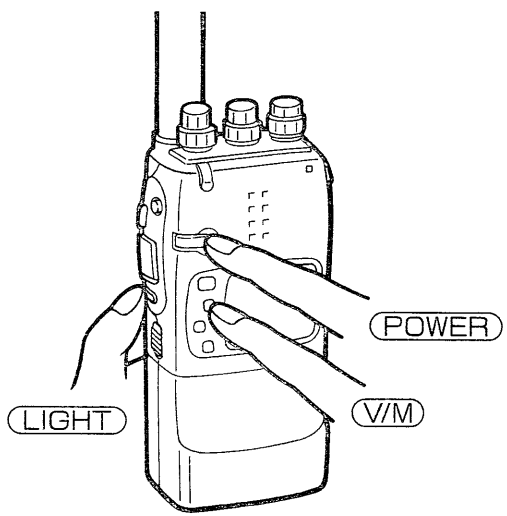
通常交信に必要な、基本機能のみで動作するようにしたモードで、本体付属の取扱説明書の操作ができます。

■多機能モードとは

シンプルモードの基本機能に加えて、いろいろな機能を使って交信したり、オプションを付加して運用したり、各種の運用条件を変えたりできるモードです。

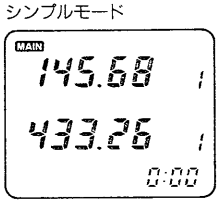
Ⅰ 多機能モードにするには

1. いったん電源をOFFにする。
2. (V/M)と(LIGHT)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる。



●シンプルモードから多機能モードにしたとき、ディスプレイの表示は変化しません。

シンプルモード

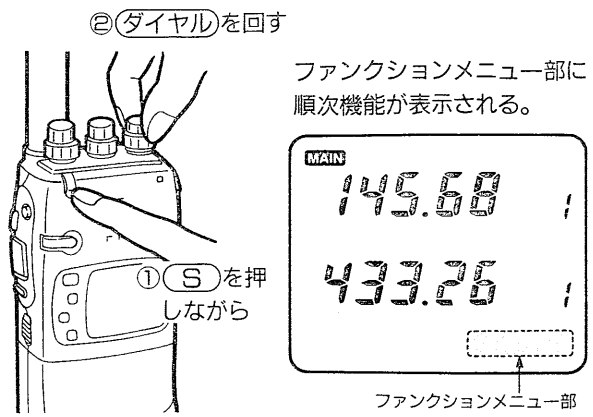


多機能モード

Ⅱ 各種機能の呼び出しかた

多機能モード中は、次の操作で使いたい機能を呼び出します。

1. (S)を押しながら、(ダイヤル)を回す。



2. 以下、呼び出した機能の使いかたは、それぞれの機能説明欄へ進んでください。

～多機能モードで扱える機能の一覧表～

機能表示	機能の概要	説明欄の見出し番号
0:00	時刻の表示および時刻の設定	
SC AN	スキャンの運用とスキップスキャン ※1	A/5
DT MF	DTMFコードの運用	7
TONE	UT-63を使ったトーンスケルチの運用	1
DUP	デュプレックスの運用	2
PGr	ページャー/コードスケルチの運用	11
Pr IO	プライオリティスキャンの運用	6
SkIP	スキップチャンネルの指定	3
MASk	マスクチャンネルの指定	4
TIME	各種タイマーの設定	10
SET	セットモードの運用	8
CALL	コールチャンネルの運用 ※2	B
U1U	同一バンド同時受信(UHF)の運用	9
BATT	電池消耗度のチェック ※3	C

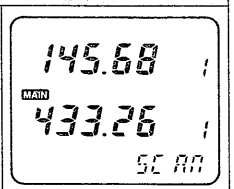
多機能モードにすると、(S)スイッチはその機能の専用操作となります。※1,2,3の操作については右欄をご覧ください。
ファンクションメニュー部に表示される機能は、最近使ったものから古いものへと、自動的に並び換えます。

多機能モードで操作が変わる機能について

A スキャンのスタート/ストップ

シンプルモードでは(S)スイッチを約1秒押すことにより、スキャンがスタートとなります。
多機能モードでは、スキャンは独立した機能としていますので、次のように操作が変ります。

(S)を押しながら(ダイヤル)を回し、ファンクションメニューを"SCAN"表示にしておく。
この表示にしなければ、スキャンの操作はできません。



1.(V/M)を押し、メモリーモード(メモリースキャン)か、VFOモード(プログラムスキャン)にします。

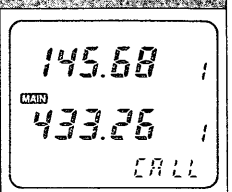
2.(S)を押す。(ワンタッチ)
スキャンがスタートします。

3.再度(S)を押すと、ストップします。

多機能モードでは、スキャンが信号受信で一時停止したときの、再スタート条件を変えることができます。
セットモードの⑧項をご覧ください。

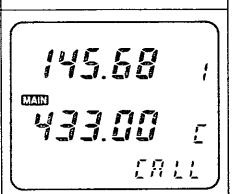
B コールチャンネルの呼び出しかた

(S)を押しながら(ダイヤル)を回し、ファンクションメニューを"CALL"表示にしておく。
この表示にしなければ、コールチャンネルの操作はできません。



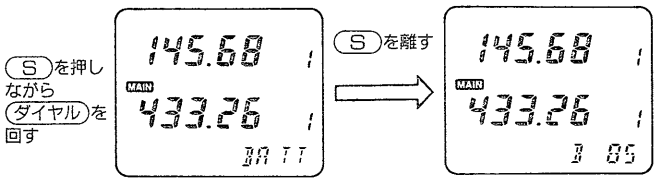
1.(S)を押す。
コールチャンネルが呼び出されます。

2.(S)または(V/M)を押す。
元のVFOまたはメモリーモードに戻ります。

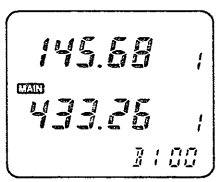


C 電池消耗度チェックのしかた

(S)を押しながら(ダイヤル)を回し、"BATT"表示にしたのち、(S)を離すと、"%"表示になる。



- 電池を100%にセットするには
(F)を押しながら(S)を押す。



電池消耗度チェックの表示のまま、シンプルモードに戻すと、ファンクションメニュー部は、そのまま"%"表示になっています。

リモコンマイクHM-75について

オプションのリモコンマイクHM-75には、取扱説明書29ページのように、BANDスイッチが付いています。このスイッチを、次のように電源投入時の特殊操作で、本体の(S)スイッチに切り替えができます。

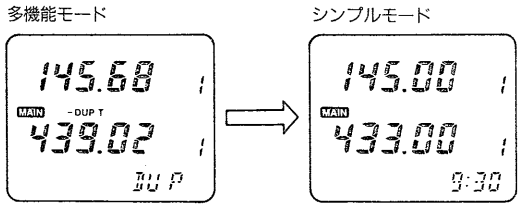
1.BANDスイッチを(S)スイッチとして使いたいとき
①いったん電源を切ります。
②(F)と(S)を押しながら、電源を入れます。
- 以下、マイクのBANDを押すと、ファンクションメニューに表示された機能のスタート操作になります。
(例)"SCAN"表示にしてBANDを押すと、スキャンのスタート/ストップができます。

2.BANDスイッチを元の機能に戻すとき
①いったん電源を切ります。
②(F)と(BAND)(本体)を押しながら、電源を入れます。
- 以下、BANDスイッチはバンド切り替えとなります。

シンプルモードに戻すには

多機能モードにするときと同じ操作を行います。
1.いったん電源をOFFにする。

2.(V/M)と(LIGHT)を押しながら、(POWER)を押し、電源を入れる。



シンプルモードに戻したときの内容は

多機能モードからシンプルモードに戻したとき、次のものが初期化されます。
- セットモードで変更した条件：初期値
- チューニングステップ(TS)：20kHz
- VFO周波数：145.00/433.00MHz

ヒーリング機能について

メモリーの内容を保持したまま、運用状態を初期状態に戻す機能で、シンプルモード時でも多機能モード時でも有効です。

1.いったん電源をOFFにする。

2.(H/L)を押しながら(POWER)を押し、電源を入れる。

(機能後の内容)

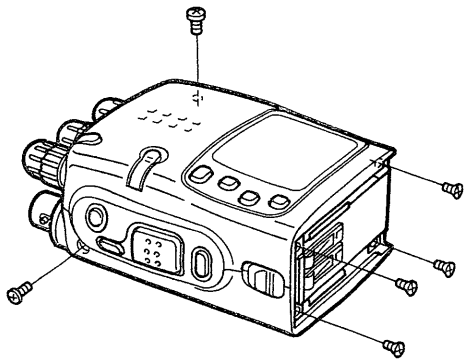
項　　目	内　容
運用モード（VFO/メモリー/CALL）	VFO
VFO周波数	イニシャル
メモリー/コールチャンネル	保　持
セットモード	イニシャル
時刻およびタイマー	保　持
チューニングステップ（TS）	イニシャル
ページャ/コードスケルチモード	解　除
U/Uモード	解　除

トーンスケルチUT-63の取付けかた

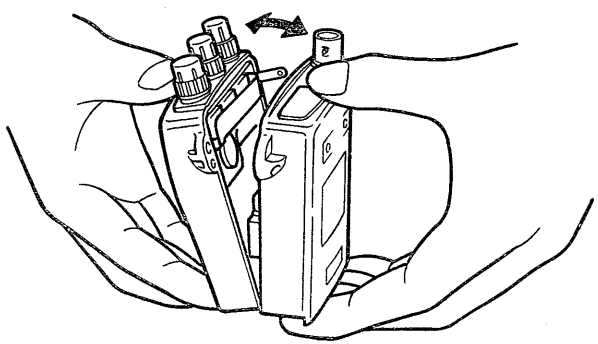
■トランシーバーの分解方法とご注意

- 電源を切り、バッテリーパック、外部電源を外しておきます。
- ドライバーは、ネジ山によくあったものを用いてください。

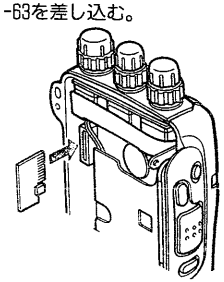
① 図のように本体のネジ(2本)を外し、本体底部の電池端子板を外す。(ネジ4本)



② 図のように前面部と後面部をV字型に開く。



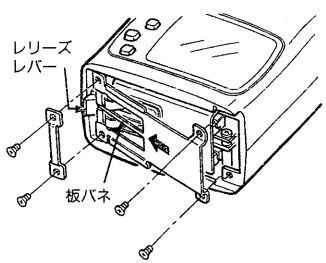
③ 図の位置にあるコネクターにUT-63を差し込む。



④ 前面部と後面部を元どおりカン合させる。

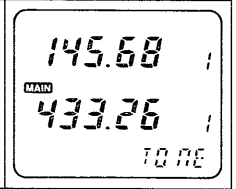
⑤ ①で示した2本のネジを取り付ける。

⑥ 電池端子板のまん中の板バネを図のようにバッテリーレリーズレバーに差し込み、ネジ止めする。



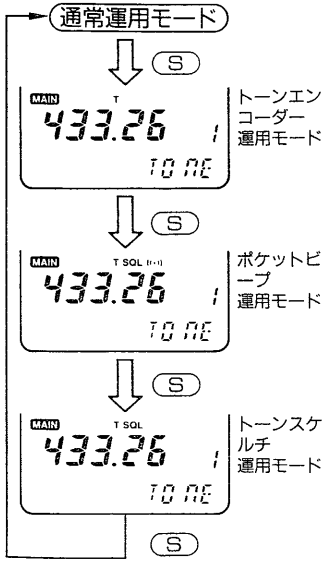
1 トーンスケルチの運用のしかた

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを"TONE"表示にしておく。



■トーン運用モードの設定

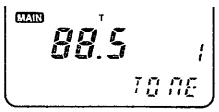
Sを押す。(ワンタッチ)
Sをワンタッチ押すごとに運用モードが変ります。



●右枠のトーン周波数を設定したのち、上記運用モードを設定し、通常運用と同様に交信を行います。

■トーン周波数の設定

1. Fを押しながらSを押す。
トーン周波数表示になります。



2. ダイヤルを回し、下表の中から選択します。
トーンは、バンド別に設定できます。

トーン周波数一覧表		
67.0	107.2	167.9
71.9	110.9	173.8
74.4	114.8	179.9
77.0	118.8	186.2
79.7	123.0	192.8
82.5	127.3	203.5
85.4	131.8	210.7
88.5	136.5	218.1
91.5	141.3	225.7
94.8	146.2	233.6
97.4	151.4	241.8
100.0	156.7	250.3
103.5	162.2	単位:Hz

3. SまたはPTTを押し、元の運用モードに戻す。

※この機能を運用するには、オプション(UT-84)が必要です。

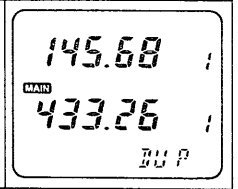
●トーンスケルチ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、トーンスケルチが開いて通話内容が聞えますので、快適な待ち受け受信が行なえます。

●ポケットビープ機能とは
特定局(同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビープ音("ピロピロピロ"の連続音)が鳴り続け、同時に"(•••)"を点滅して知らせますので、聞き逃すことがありません。呼び出しを受けたら、30秒以内にPTTスイッチを押して通話するか、Sスイッチを押してポケットビープ機能を解除("(•••)"が消灯する)して、トーンスケルチ機能にします。また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、ディスプレイの"(•••)"は点滅状態を続け、呼び出しの受けたことを知らせます。

2 DUPLEXモードとオフセット

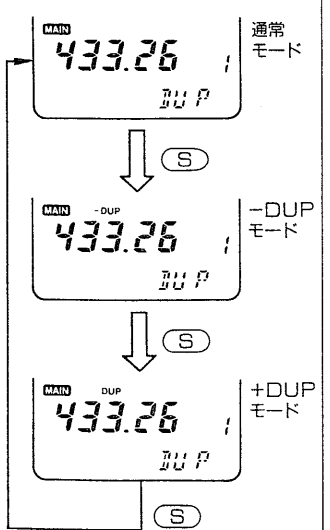
この機能は、430MHz帯のみで、439MHz以上の周波数をセットすると、自動的にレピータ運用モードになります。
439MHz以下では、DUPLEXモードとそのシフト周波数(オフセット)が設定でき、送信と受信とが違う周波数で動作します。

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを"DUP"表示にしておく。



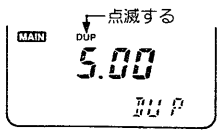
■運用モードの設定

Sを押す。
Sを押すごとに、運用モードが変ります。

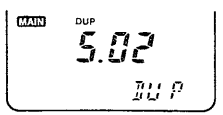


■オフセットの変更

1. Fを押しながら、Sを押す。
オフセット表示になります。



2. ダイヤルを回す。



●0〜60MHzの範囲で、セットができます。
※Fを押しながら、ダイヤルを回すと100kHzステップになります。

3. SまたはPTTを押すと元の運用モードに戻る。

−DUPモード：送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分低くなる。
+DUPモード：上記の逆で高くなる。

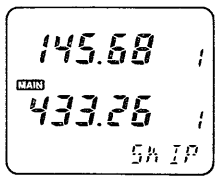
■オートレピータ機能をOFFにするには

439MHz以上の周波数になると、オートレピータ機能となりますが、次の方法でOFFにすることができます。
1. ファンクションメニューを"SET"にする。
2. セットモードの項目を"Ar"(オートレピータ)にする。
3. "Ar"をOFFにする。※セットモードの⑫項参照

3 スキップチャンネルの指定

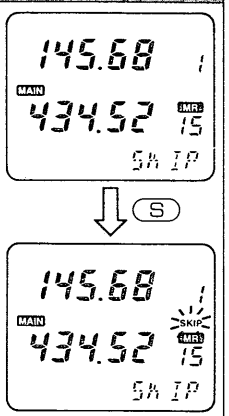
スキップ指定を行うと
メモリーを拡張したのち、メモリースキャンを行うと、書き込みを行ったチャンネルのすべてをスキャンします。このスキャンを効率よくするために、スキャンしなくてもよいチャンネルにスキップ指定を行うと、メモリースキップスキャンになります。

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを“SKIP”表示にしておく。



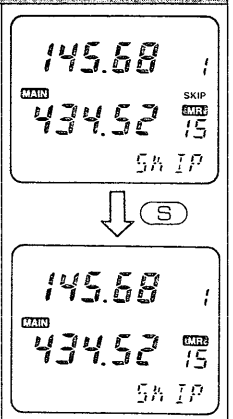
■スキップの指定のしかた

1. V/Mを押し、メモリーモードにする。
2. ダイヤルを回し、スキップを指定したいチャンネルを呼び出す。
3. Sを押し、“SKIP”を点灯させる。
   Sを1回押すごとに“SKIP”が点灯/消灯を繰り返します。



■スキップの解除のしかた

1. スキップ指定されたチャンネルを呼び出す。
2. Sを押し、“SKIP”を消灯させる。

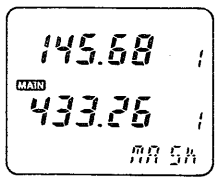


5項のプログラムスキップスキャンで、スキップ周波数として登録された周波数のスキップを解除するときは、上記の方法で行います。

4 マスクチャンネルの指定

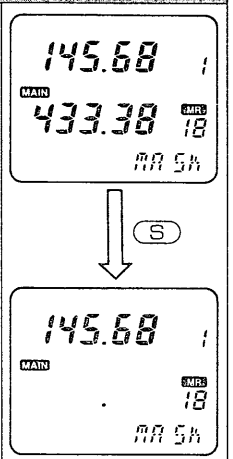
マスク指定を行うと
マスクされたチャンネルは、ダイヤルだけの呼び出しはできませんから、メモリー呼び出しが効率よくできます。
また、あまり使わない周波数でも、記憶しておいていつかの機会に使いたいときなどに、マスクをしておけば便利です。

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを“MASK”表示にしておく。



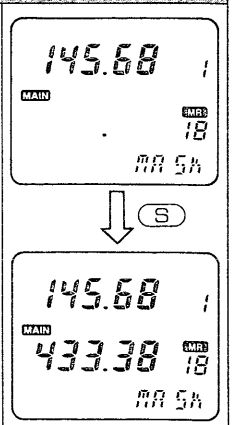
■マスクの指定のしかた

1. V/Mを押し、メモリーモードにする。
2. ダイヤルを回し、マスク指定したいチャンネルを呼び出す。
   ※メモリーの0CHはマスクできません。
3. Fを押しながら、Sを押す。
   周波数表示が消えます。
   再度、この操作で、元の周波数が表示されます。



■マスクの解除のしかた

1. マスクされたチャンネルを呼び出す。
2. Fを押しながら、Sを押す。
   マスクする前の情報が、そのままに表示されます。

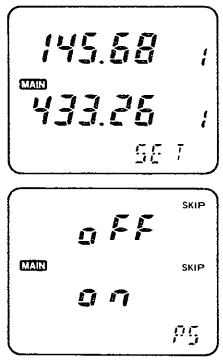


5 プログラムスキップスキャンのしかた

周波数スキャンを行うと、不要な信号で停止することがあります。この不要な周波数をスキップ周波数として登録することにより、次回からのスキャンがスムースにできます。

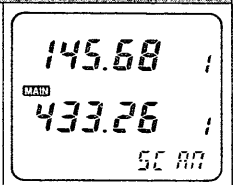
(1)準備操作(セットモードで選択する)

あらかじめ、セットモードでスキップスキャン機能をONにしておきます。
1. ファンクションメニューを“SET”にする。
2. Sを数回押し、“PS”項目にする。
3. ダイヤルを回しONにする。
   バンドごとにON/OFFできます。
   ※セットモード③項参照
4. PTTを押し、周波数表示に戻す。



(2)ファンクションメニューをSCANにする

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを“SCAN”表示にする。

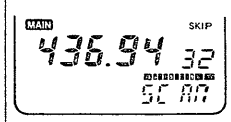


(3)スキップ周波数の登録のしかた

1. VFOモードにし、Sを押してスキャンをスタートさせる。
2. 信号を受信して、スキャンが一時停止したとき、その周波数が不要であれば、Fを押しながら、V/Mを約1秒押す。(ピッピピが鳴るまで)
   32CHにスキップ周波数として登録されます。以下、一時停止中に3の操作を行いますと、順次登録されます。
   登録は32~10CHまでの23CH可能です。

● 以上の操作で登録された周波数は、以後に行われるスキャンから除外されます。

信号受信で停止中
F+V/Mを押す



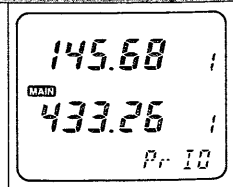
この周波数は、以後のスキャンではスキップされる。また、メモリースキャン時も、32CHはスキップされる。

■登録の取り消しかた(スキップスキャンOFF)

登録されたスキップ周波数を、元どおり復帰させるには、
1. スキップ指定を解除する。(スキップチャンネルの指定の項参照)
2. スキップスキャン機能をOFFにする。(上記(1)項参照)

6 プライオリティスキャンのしかた

Ⓢを押しながらⒹを回し、ファンクションメニューを“PRIO”表示にしておく。

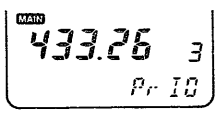


プライオリティスキャンは、VFOと指定メモリー間で行うものと、VFOとメモリー順次スキャンの2種類があります。

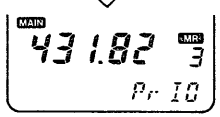
■VFOと指定メモリー

1.VFO周波数を設定する。
2.ワッチしたいメモリーチャンネルを呼び出す。
※1と2の操作は、どちらが先でもかまいません。
3.Ⓢを押す。
プライオリティスキャンがスタートします。

VFO 5秒ワッチ



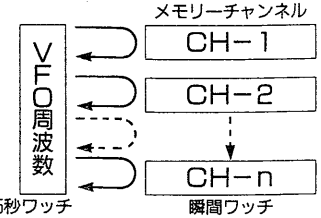
メモリー 瞬間ワッチ



VFO周波数を約5秒ワッチし、メモリーチャンネルを瞬間的にワッチする動作を繰り返して行います。

■VFOとメモリー順次

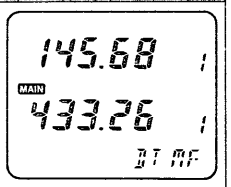
1.メモリースキャンをスタートさせる。
①メニューを“SCAN”表示にする。
②メモリーモードにする。
③Ⓢを押す。
メモリースキャンがスタートします。
2.スキャンが動作中にⓈを押しながら、Ⓓを回し“PRIO”表示にする。
3.Ⓢを押す。
メモリー順次スキャンがスタートします。



4.メモリーチャンネルで信号を受信すると、スキャンが一時停止し約15秒後、VFOに戻り再スタートします。
5.プライオリティスキャンを解除するには
①VFO周波数をワッチしているときは、Ⓢを押す。
②メモリーチャンネルで停止しているときは、Ⓢを押すとVFOに戻るため、もう1回Ⓢを押す。
●停止しているメモリーチャンネルで送信する場合は、
①Ⓢを押す。(VFOに戻ります。)
②Ⓥ/Ⓜを押し、メモリーモードにする。
③Ⓟ Ⓣ Ⓣを押し、送信する。

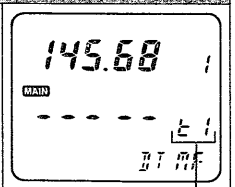
7 DTMFコードの取り扱いかた

Ⓢを押しながらⒹを回し、ファンクションメニューを“DTMF”表示にしておく。



1.DTMFメモリーの呼び出しかた

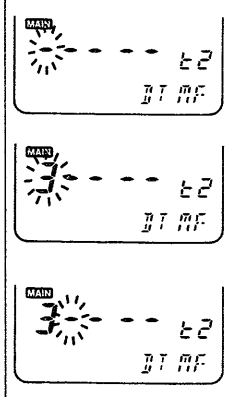
1.Ⓢを押す。
DTMFメモリーを表示します。
2.Ⓓを回す。
メモリーは、T1～T4の4CHあり、1つのメモリーに15桁までのコードを記憶できます。
●このメモリーは、両バンド共用です。



DTMFメモリーCH ダイヤルで切り替え

2.DTMFコードの記憶のしかた

1.上記の操作で、記憶させたいメモリーを呼び出す。
2.Ⓕを押しながらⓈを押す。
1桁目が点滅します。
3.Ⓓを回し、コード(0～F)を設定する。
4.Ⓢを押す。
点滅が次の桁に移ります。
5.Ⓓを回して、コードを設定する。
以下、3,4の操作を繰り返す。
6.Ⓕを押す。
点滅が止まり、記憶されます。
7.Ⓟ Ⓣ Ⓣを押し、周波数表示に戻す。
※次のメモリーに移るときは、Ⓓを回す。

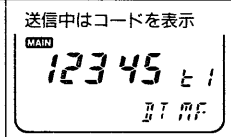


表示は5桁ごとに切り替わり、15桁まで入力できる。

3.DTMFコードの送出のしかた

1.送出したいメモリーを呼び出し、周波数表示に戻す。
2.Ⓟ Ⓣ Ⓣを押しながらⓈを押す。

送信中はコードを表示

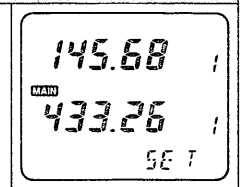


※記憶させたメモリーを呼び出し、Ⓢを押すと、記憶内容の確認ができます。

8 セットモードについて

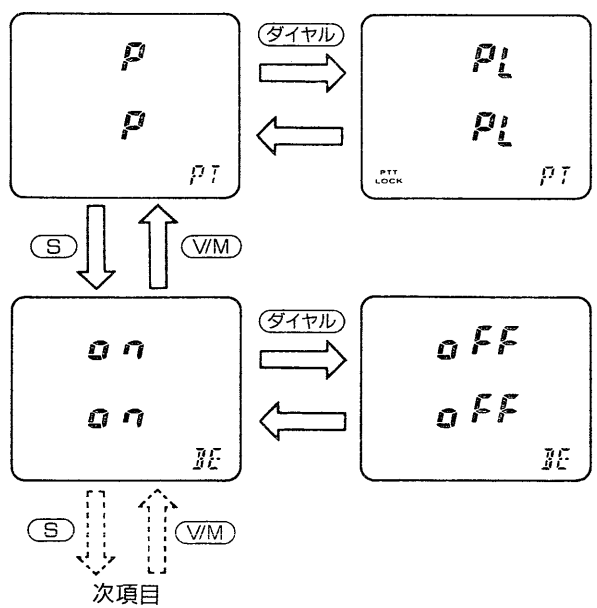
セットモードは、初期設定された運用条件を、好みの条件に変更するためのモードです。
●変更した運用条件は、多機能モードのときのみ有効で、シンプルモードに戻すと、すべて初期値に戻ります。
●再度、多機能モードにしたときも、初期値のままですから、再セットしてください。

Ⓢを押しながらⒹを回し、ファンクションメニューを“SET”表示にしておく。



セットモードの操作のしかた

1.Ⓢを押す。(セットモードになります。)
以下、Ⓢを押すごとにセット項目が切り替わります。
(Ⓥ/Ⓜを押すと逆回りになります。)
2.Ⓓを回す。(運用条件を変更します。)



3.Ⓟ Ⓣ Ⓣを押す。(元の運用表示に戻ります。)

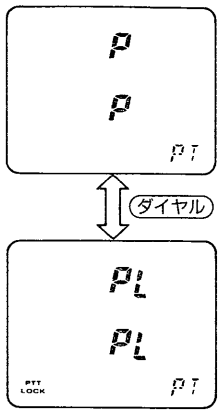
バンド別に違った条件が設定できる項目については“BAND”表示が出ますので、BANDスイッチで切り替えて設定してください。

セットモードで変更できる運用条件

シンプルモードから、多機能モードに移したとき、セットモードの内容はすべて初期値になります。(上側のディスプレイが初期値)

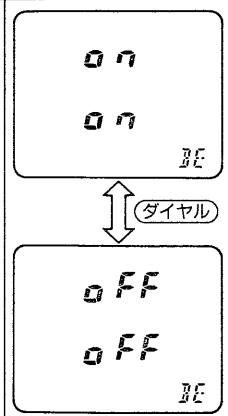
①PTTの働きを無効にする

- (PTT)スイッチを押すと、送信状態になりますが、送信中は電池の消耗が厳しくなります。このため、まちがって(PTT)を押しても送信にならないようにする機能です。
- "PL"表示にすると、(PTT)の送信機能のみ無効にします。



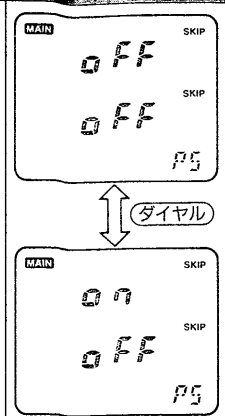
②ビープ(操作音)を無効にする

- 操作が正しく行われたかどうかをビープ音で知らせていますが、このビープ音が鳴らないようにする機能です。
- "OFF"表示にすると、ビープ音が出なくなります。



③スキップスキャンのON/OFF

- プログラムスキップスキャンの有効/無効を切り替えます。
- OFFにしておくと、スキップ周波数の書き込み操作も無効です。
  (5項プログラムスキップスキャンのしかたを参照)
- (BAND)を押すと、バンド切り替えができ、バンド別に設定可。

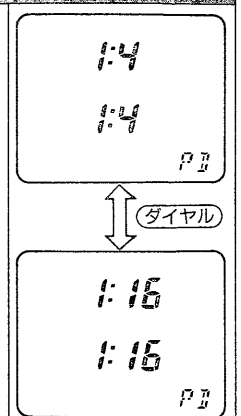


④パワーセーブ比を設定する

- 電池の消耗を防ぐため、待受け状態のとき、パワーセーブ機能を働かせています。
- 待受け状態と休止状態の時間比を設定する機能です。

	待受時間	休止時間
1:4	125ms	500ms
1:16	125ms	2000ms

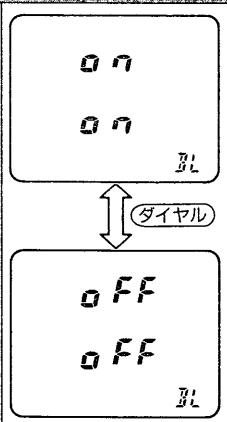
- "OFF"表示にすると、パワーセーブは動作しません。



⑤受信ランプの点灯をなくする

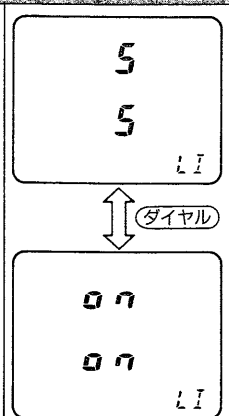
- 信号を受信すると、受信ランプが緑色に点灯します。
  電池の消耗を防ぐためのもので、受信しても点灯しないようにする機能です。
- "OFF"表示にすると、受信ランプが点灯しなくなります。

※送信(赤)ランプは点灯します。



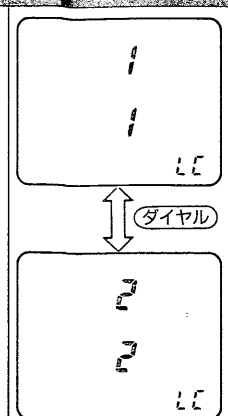
⑥ディスプレイ照明を手動にする

- ディスプレイの照明は、通常5秒間で自動消灯します。
- "ON"表示にすると、(LIGHT)スイッチのON/OFF操作で、点灯/消灯ができ自動消灯がなくなります。



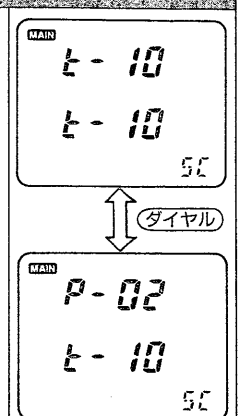
⑦ディスプレイの濃淡を変える

- ディスプレイの表示は、周囲の明るさによって見やすさが変わります。
  周囲の条件に応じて、いちばん見やすくするためのものです。
- 1と2の2段階にセットできますので、見やすいほうにセットしてください。



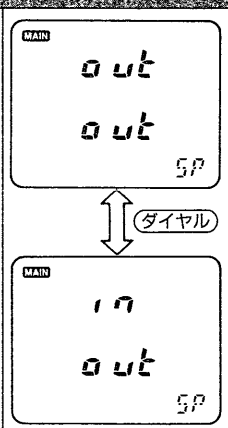
⑧スキャンの再スタート条件を変える

- スキャン中、信号受信で一時停止したときから、再スタートするタイマーを変更することができます。
  - t-15:信号受信から15秒後
  - t-10:信号受信から10秒後
  - t-05:信号受信から 5秒後
  - P-02:信号が途切れるまで受信し、途切れてから2秒後
- (BAND)を押すと、バンド切り替えができ、バンド別に設定可。



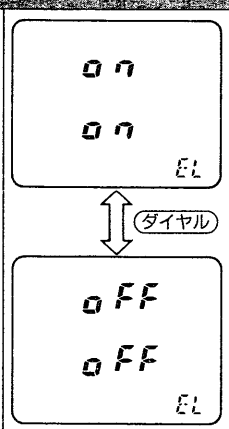
⑨スピーカー出力を振り分ける

- 各バンドの出力を、内蔵スピーカーと外部スピーカーに任意に出力させることができます。
  IN表示　：内蔵スピーカー
  OUT表示：外部スピーカー
  外部スピーカーを接続したときのみ有効です。
- (BAND)を押すと、バンド切り替えができ、バンド別に設定可。



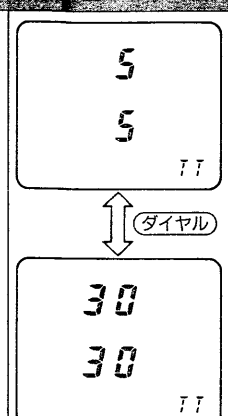
⑩ELOWオートをなくする

- バッテリーパックの電池容量が、残り少なくなると、ELOWを自動点灯させる機能があります。
  (取扱説明書28ページ)
- OFFにセットすると、この機能を無効にします。



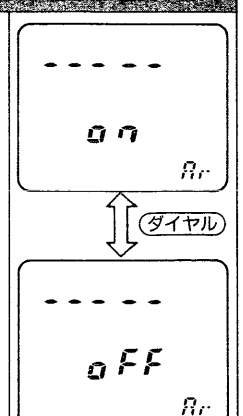
⑪ウィスパータイマーの設定

- ウィスパーモードは、シンプルモードでも、多機能モードでも同様に操作できます。
  多機能モード時は、ウィスパーモードの時間制限を、次の中から選択できます。
  5分/15分/30分/OFF
- OFFにセットすると、時間制限はなくなります。
- シンプルモードに戻すと、5分タイマーになります。



⑫オートレピータ機能のON/OFF

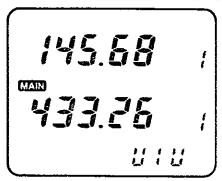
- この項目は、430MHz帯のみです。
- 490MHz以上の周波数に設定するとオートレピータ機能が動作します。
  (取扱説明書24ページ)
- "OFF"表示にすると、オートレピータ機能が無効になります。



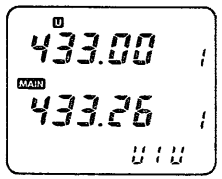
9 同一バンド同時受信について

メインバンドとサブバンドを同じ周波数帯をセットして運用することができます。
ただし、UHF(430MHz帯)のみで、VHF帯はできません。

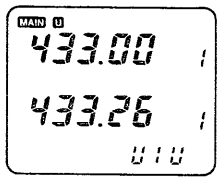
Ⓢを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを“U/U”表示にしておく。



1. Ⓢを押す。
144MHz帯の表示が430MHzに切り替わります。

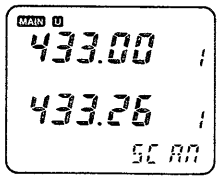


2. BANDを押す。
メインバンドの切り替えができます。
以下、同一バンドにしたまま、各種の操作ができます。

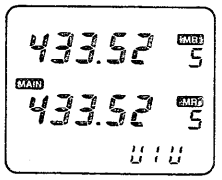


●送信はメインバンド側で行いますが、送信中はサブバンドの受信は行いません。

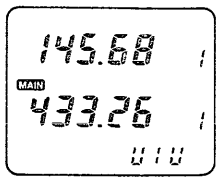
●U/U機能をセットしたのち、他の運用モードにも移ることができます。
※Ⓢを押しながら、ダイヤルを回し、他の機能をセットする。



●メモリーCHは、本来のUHF帯のものを使用しますので、記憶内容は、上下とも同じになります。



3. 再度Ⓢを押すことにより、上部表示は144MHz帯に戻ります。

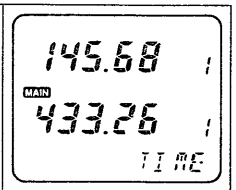


ご注意
1. U/U運用中は、ウィスパー機能は使えません。
2. レピータメモリー(rP)は、1CHですから、上下同じ周波数になります。

10 タイマーのセットのしかた

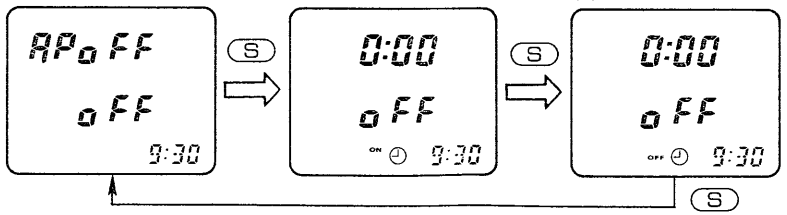
タイマーは、次の3種類があります。
(1)一定時間後に電源をOFFにするオートパワーオフ
(2)指定の時刻に電源をONにするオンタイマー
(3)指定の時刻に電源をOFFにするオフタイマー

Ⓢを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを“TIME”表示にしておく。



■各タイマーを呼び出すには

Ⓢを押す。
Ⓢを押すごとにタイマーの種類が切り替わります。
●各タイマーは、複合して使用ができます。

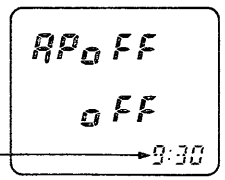


■各タイマーのON(有効)/OFF(無効)の指定
ON　：ダイヤルを右に回す
OFF：ダイヤルを左に回す

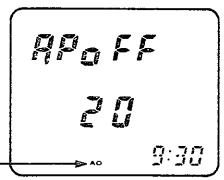
■各タイマーが動作しているときの表示は
ON / OFF / AO 🕘マークが点灯する

(1)オートパワーオフのセット

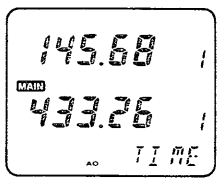
1. Ⓢを押し、オートパワーオフの表示にする。



2. ダイヤルを回し20/40/60(分)を選択する。



3. PTTを押し、元の運用モードに戻す。

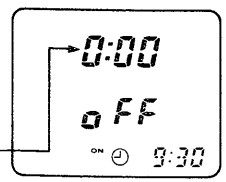


4. 設定した時間(分)を経過すると、ディスプレイの表示がすべて消灯し、パワーオフ状態になります。

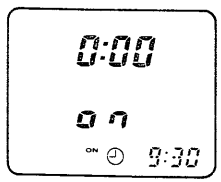
このタイマーは、電源の切り忘れをカバーするためのもので、1回セットすると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。
必要がない場合は、“OFF”(初期設定値)にセットしておきます。

(2)オンタイマーのセット

1. Ⓢを押し、オンタイマー表示にする。

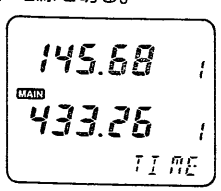


2. ダイヤルを右に回して、“ON”表示にする。
タイマーが動作完了すると“OFF”に戻ります。



3. 以下、取扱説明書の時計の合わせかたと同様に、時刻をセットします。
①Fを押しながら、Ⓢを押す。
②ダイヤルを回し、“時”をセット。
③Ⓢを押す。
④ダイヤルを回し、“分”をセット。
⑤Fを押す。

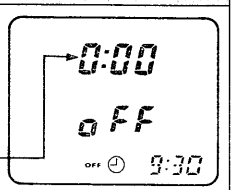
●タイマー時刻のセットが完了すれば、
4. PTTを押す。(周波数表示に戻る)
5. POWERを押し、電源を切る。
6. タイマー時刻になると、運用状態に戻る。



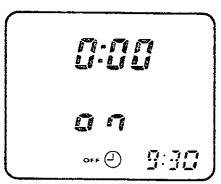
ON 🕘マークが消灯します。

(3)オフタイマーのセット

1. Ⓢを押し、オフタイマー表示にする。

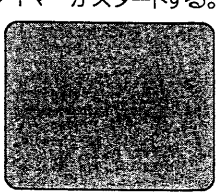


2. ダイヤルを右に回して、“ON”表示にする。
タイマーが動作完了すると“OFF”に戻ります。



3. 以下、取扱説明書の時計の合わせかたと同様に、時刻をセットします。
①Fを押しながら、Ⓢを押す。
②ダイヤルを回し、“時”をセット。
③Ⓢを押す。
④ダイヤルを回し、“分”をセット。
⑤Fを押す。

●タイマー時刻のセットが完了すれば、
4. PTTを押す。
周波数表示に戻り、タイマーがスタートする。
5. タイマー時刻になると、パワーオフ状態になる。



11 ページャー/コードスケルチの運用のしかた

■ページャー/コードスケルチ機能とは

●**ページャー機能**
この機能は、ある特定局との待ち受け、呼び出しを行う場合に大変便利な機能です。
あらかじめ、交信相手と個別コードやグループコードを決めておくことにより、特定の相手局の呼び出し/待ち受け、グループ一斉呼び出し/待ち受けなどができます。また、呼び出されたときはビープ音(ピロピロピロ…)で知らせると共に、呼び出した側のコードも表示されるので、確実な待ち受けをすることができます。

●**コードスケルチ機能**
この機能は、ある特定局との交信を行う場合に、大変便利な機能です。自局でセットしたコードと同じコードを受信したときのみ、スケルチが開き通話内容が聞こえますので、特定局との交信ができ、従来のトーンスケルチと同様の運用ができます。また、トーンスケルチとの併用もできます。

●**局コードについて**
ページャーおよびコードスケルチを運用する場合、自局と相手局(グループも含む)のコードを、あらかじめ打合せて、決めておきます。コードは3桁の数字で組み合わせます。

■コードメモリーの機能について

あらかじめ決めておいた個別コードやグループコードを、書き込んでおくチャンネルをコードメモリーといいます。

メモリーメンバー	用途	待ち受け動作	コードの書き替え
C0	自局の個別コード	常時可能	可能
C1	相手局の個別コードまたはグループコード	待ち受け「拒否」と待ち受け「応答」を選択できる	
C2			
C3			
C4			
C5			
CP	受信した相手局のコード	動作しない	不可

①メモリーナンバー[C0]
自局の個別コードを書き込むメモリーです。
このコードは、ページャーおよびコードスケルチ機能のどちらにも使用され、このコードで呼び出しを受けると、スケルチを開きます。またページャー運用時は、このコードも相手局に送出します。

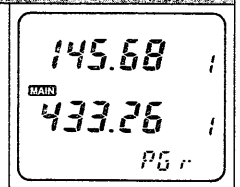
②メモリーナンバー[C1~5]
相手局の個別コードまたはグループコードを書き込むメモリーです。
送信時は、このメモリーC1~C5のいずれかをセットしておくことで、相手局コードを送出します。
待ち受け時、このいずれかのコードで呼び出しがあると、スケルチを開きますが、自局に関係のない呼び出しに対してもスケルチを開きますので、呼び出しに対して「拒否」、「応答」の選択が、あらかじめセットできます。

③メモリーナンバー[CP]
ページャー機能で呼び出しを受けたとき、相手局の個別コードが自動的に書き込まれるメモリーです。

■運用のしかた

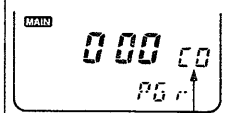
両バンド別々のコードを設定したり、運用ができる。

Sを押しながらダイヤルを回し、ファンクションメニューを"PGR"表示にしておく。



(1)コードメモリーの呼び出しかた

1. Fを押しながらSを押す。
コードメモリー表示になります。
2. ダイヤルを回す。
C0-C1-C2-C3-C4-C5-CP
の切り替えができます。

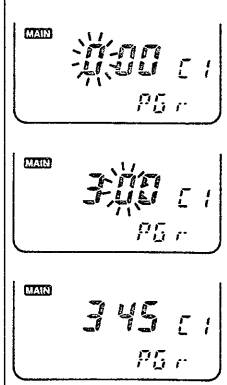


ダイヤルで切り替え

(2)コードの設定のしかた

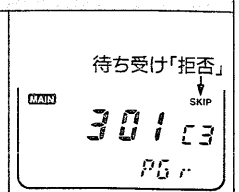
C0には自局コード、C1~C5には相手局(グループ)コードを書き込む

1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。
2. Fを押しながら、Sを押す。
1桁目が点滅します。
3. ダイヤルを回して、1桁目をセットする。
4. Sを押す。
2桁目に移ります。以下、同じ操作で3桁セットします。
5. Fを押す。
点滅が止まり、書き込み完了です。
6. ダイヤルを回すと、次のメモリーに、PTTを押すと、周波数表示になります。



(3)待ち受け機能の選択のしかた

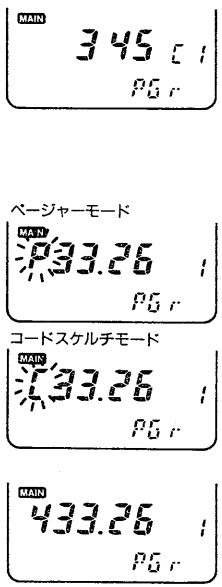
1. 上記(1)の操作で、コードメモリーを呼び出す。
2. V/Mを押す。
V/Mを押すごとに、"SKIP" 表示が点灯/消灯する。



待ち受けの選択は、グループの中で他局同士が呼び出しをかけたとき、C1~C5のメモリーにそのコードが書き込まれていると、関係のない受信をすることになり、これを防ぐために、待ち受け拒否を行います。※C0メモリーは、「拒否」の指定はできません。

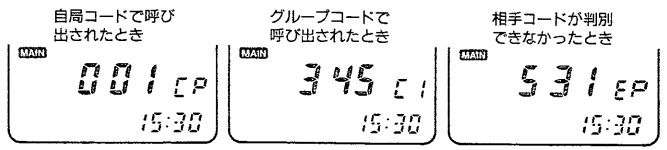
(4)ページャー/コードスケルチの送信のしかた

1. 呼び出しをかける相手局のコードが書き込まれたメモリー(C1~C5)を呼び出す。(左欄(1)の操作)
2. PTTを押し、周波数表示にしたのち運用周波数を設定する。
3. Sを押す。
Sを押すごとに"PGR"と"C SQL"の運用モードが設定できます。
4. PTTを押し、送信する。(1~2秒)
このとき、コードを送出します。
345(相手コード) × 001(自局コード)
※C SQL時は相手コードのみ
C1~C5のいずれかにセットしたコード
5. 相手局から応答を受信すれば、Sを押し、"PGR""C SQL"を消灯させ、通常の周波数表示にする。
6. 通常の交信に入ります。



(5)ページャー/コードスケルチの受信は

相手局からの呼び出しを待ち受ける場合は、Sスイッチで"PGR"または"C SQL"モードにしておきます。
相手からのコードを受信すると、次の表示になります。(PGR時)



※相手局コードが表示される
※相手コードはCPにメモリーされる
※PTTを押すと待ち受け状態に戻る

トーンスケルチと併用ができる。

●トーンスケルチユニット(UT-63)を装着しているときは、併用運用ができます。
1. ファンクションメニューを"TONE"表示にし、"T SQL"運用モードにする。
2. ファンクションメニューを"PGR"表示にし、"PGR"または"C SQL"にする。
※このときも、呼び出し確認後は、"PGR"または"C SQL"を消灯して交信します。